

ね、この本よんだ？



2018年度



図書館で発行している『としょかん通信』でご案内した
「あたらしい子どもの本」のリストです。

絵本、読みもの、テーマ本の三つの柱にわかれた
ブックガイドとなっています。

紹介した本は、図書館で貸出ご利用いただけます。

このリストが、子どもたち、そして大人のみなさんにとっても
素敵な本との出会いのきっかけになりますように。



久留米市立中央図書館



えほん(日本)

『おおきくなったら きみはなんになる?』

藤本 ともひこ／文
村上 康成／絵
講談社



おおきくなったら、きみはなんになる？
なりたいものは、きっと、いっぱいあって、みんなちがう。だからこそ、きみにきくんだ。
「きみはなにがすき？」「きみはなにがしたい？」やさしく語りかけてくれる言葉が、好きなものや大切なものを見つける気持ちを応援してくれます。
そして「きっと、できる！」と夢へと向かう背中を力強く押してくれる絵本です。

『さやかちゃん』 くすのきしげのり／作 こぼ ようこ／絵 ポプラ社



小学2年生のしゅうと君は、転校生のさやかちゃんに声をかけられた日からなんだかドキドキしていました。さやかちゃんのお日さまみたいな笑顔や明るい性格はクラスのみんなが惹かれていきます。
ある日、しゅうと君はさやかちゃんと一緒に家で勉強することになり…。人を好きになることの良さを瑞々しい感覚で描いた、心があたたくなるお話です。

『ブルドッグたんていときえたほし』

谷口 智則／作・絵
文溪堂



どんな事件でもいちごこのブルドッグ探偵のもとに届いた依頼は、夜空から消えた「星を探してください」でした。街、森、砂浜、海で調査を始め、やっと見つけた星が夜空から消えた理由はみんなが願い事をしなくなったから。夜空に星を帰すためにはみんなのたくさんの願い事が必要です。
さあ、あなたは星にどんな願い事をしますか？

『おじいちゃんパン』

たな／作・絵 パイインターナショナル



おじいちゃんは甘い食パンが大好き。こんがりやいたトーストにイチゴのジャムやマシュマロやあんこをたっぷりのせてほおばります。そしてかならず「ほく」にひと切れくれるのです。
おじいちゃん「ほく」のほっこりおいしいやりとりは「ほく」が大人になるまで続いていきます。コミック作品も手掛ける作家による、子どもから大人まで家族で味わえる絵本です。

『せんそうをはしりぬけた「かば」でんしゃ』

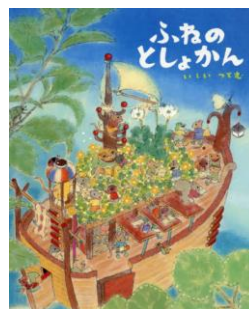
間瀬 なおかた／作・絵
ひさかたチャイルド



1936年に生まれた電気機関車『イーエフ・ゴジュウゴイチ(EF551)』は、流線型の姿がかばに似ていたので、みんなから『かば』と呼ばれ親しまれていました。いまは埼玉県のと鉄道博物館に保存・展示されていますが、その運転席には空襲で受けた銃弾のあとが残っています。戦争を経験し、戦後、復興の時代を走り抜けた特急列車『かば』の物語。

『ふねのとしょかん』

いしいつとむ／作
文研出版



ねずみの男の子はどきどきしていました。なんたって今日は、たくさんの本を積んだ“ふねのとしょかん”に初めて乗る日なのです。たくさんの本とお友達に乗った船は、川の流れて乗ってどんどん進んでいきます。ところが、途中でゴロゴロと雷が鳴り始めて…。ねずみの男の子のどきどきわくわくした気持ちが伝わる楽しい絵本です。

『せんたくばさみのサミー』
ひらぎ みつえ／作・絵
鈴木出版



まみちゃんのお家には家族の洗濯物を乾かす仕事をする洗濯ばさみのサミーがいます。今日もいい天気なので張りきって洗濯物を乾かそうとしますが、とても強い風が吹いて、まみちゃんのお気に入りの帽子を飛ばしてしまいました。帽子を追いかけていったサミーは果たして帽子をまみちゃんに返すことができるのでしょうか？サミーの活躍をぜひご覧ください！

『万次郎さんとおにぎり』
本田いづみ／さく
北村人／え
福音館書店



秋になり、万次郎さんの田んぼでたくさんのお米がとれました。万次郎さんはさっそくお米をたいて、10コのおにぎりを作ります。すると、おにぎりたちはムズムズ動きだし、おてんとさまに会いにびよんびよんころころ外へ飛びだしてゆきました。実りの秋の喜びが伝わってくる1冊です。2012年「こどものとも年少版」がハードカバーになりました。

『まいにちがプレゼント』
いもと ようこ／作・絵
金の星社



朝がやってきます。見るもの、感じるもの、すべてのことは昨日とおなじようでおなじではありません。まいにち新しい朝がやってきます。今日は何となく過ぎていって、すぐに昨日に。そして明日が今日になっていきます。一生は一日のあつまりです。一日として同じ日はありません。すべての人にプレゼントされている「今日」を感じる絵本です。

『ひだまり』
林 木林／文
岡田 千晶／絵
光村教育図書



乱暴者の猫トラビスはみけねこのミケーレと出会って変わっていきます。他の猫に魚を分けること、暖かい陽だまりを共有すること。ミケーレと出会って幸せを知ったトラビスは、同時に大切なものを失う怖さを覚えました。そんなある日、ミケーレは車にひかれて大けがを負ってしまい…。絶望の底から希望を見つけるトラビスの姿を暖かく描いた絵本です。

『まめまきできるかな』
すとう あさえ／ぶん
田中 六大／え
ほるぷ出版



みなさんは節分という日本の行事を知っていますか？節分では「おには一、そと」と言って豆をまいて鬼を追い払い、「ふくは一、うち」と言って福を招きます。まこちゃんは上手に豆をまけるか練習をしますが、うまく豆をまけません。どうやったら上手に豆をまけるでしょうか。節分の日におうちの人と一緒に豆をまいて鬼を追い払いましょう！

『ゆうなとスティービー』
堀米 薫／作
丸山 ゆき／絵
ポプラ社



牛農家のゆうなの家には、ある日目の見えない子牛が生まれました。スティービーと名付けられたその子牛はゆうなが世話をすることに。お父さんお母さんが大切に牛の世話をする姿を見ながら、ゆうなも毎日たくさんスティービーに語りかけ、絆を深めていきます。やがて出荷の日を迎え、たくさんの人の命になっていくスティービーに、ゆうなは…。農業を営む著者が実体験をもとに描いた作品です。

えほん(海外)

『おはなみくまちゃん』

シャーリー・パレント／ぶん
デイヴィッド・ウォーカー／え
福本 友美子／やく



さいたさいた、さくらがまんかい。
くまちゃんたち、おはなみするのかな？ バスケットのなかに、おべんとうとタオルをつめこんで、さあいこう！ 太鼓を叩いてたんたかたん！ 凧あげたら楽しいよね。どこでおべんとう食べようかな？
可愛らしくくまちゃんたちが優しい色合いで描かれた心温まる絵本です。

『フランクリンの空とぶ本やさん』

ジェン・キャンベル／文 ケイティ・ハーネット／絵
横山 和江／訳
BL出版



ドラゴンのフランクリンは、本が大好き。自分で読むのも好きですが、誰かに読んであげるのも、ものすごく好きなんです。町の人たちにも本を読んでもらいたいと出かけますが、みんなフランクリンの姿を見て逃げてしまいます。
ところがある日、本とドラゴンが好きな女の子、ルナに出会って二人はすぐに意気投合し、ある計画をたてます。その計画とは…？

『ツリーハウスがほしいなら』

カーター・ヒギンズ／文 エミリー・ヒューズ／絵
千葉 茂樹／訳
ブロンズ新社



“ツリーハウスがほしいなら、まずはゆったりあわてずに、さあそらを見あげよう”
木に囲まれた空に浮かぶ家や、木にくくりつけたブランコ。ツリーハウスには図書館も。子どもたちが大好きなものを詰め込んだ、憧れのツリーハウスをどんどん想像していきます。1本の木から様々なツリーハウスを想像したくなる絵本です。

『みんな、ワンダー』

R.J.パラシオ／作・絵
中井 はるの／訳
アルファポリス



世界でベストセラーになった『ワンダー』の主人公のお話です。愛犬デージーといっしょにボール遊びをしたり、アイスクリームを食べたりするオギーは生まれつき顔に障害がある男の子。自分の見た目は変えられなくても、みんなの見る目を変えることができるはず。「ちがう」のはオギーだけじゃなく、みんなちがうから素晴らしくてワンダーであることを教えてください。

『ガラスのなかのくじら』

トロイ・ハウエル&リチャード・ジョーンズ／作
椎名かおる／訳 あすなる書房



くじらのウェンズデーは、大きな水槽の中に住んでいます。水槽の中しか知りません。でもある日、遠くの方に見えたすてきなブルーに心を奪われます。静かで穏やかなブルー。なんだかわからないけれどどきどきして、「もういちどみられたら」と何度もジャンプします。知らないうちに自由を待ち望んでいるくじらの物語です。

『王さまとよごれた足』

サリー・ポム・クレイトン／作
ライアノン・サンダーソン／絵
青山 南／訳
光村教育図書



王様はたったひとつ大嫌いなことがありました。それは体をあらうこと。ずっと体をあらわなかった王様がついに川で体をきれいにしたのに、川から上がると足がよごれています。何度あらってもよごれてしまう足を見て、王様は召使に「国が土でよごれている、よごれをとれ」と命じます。さて、召使は王さまの願いをかなえることができたのでしょうか？

『カタカタカタ』

リン シャオペイ／さく、宝迫 典子／やく
ほるぷ出版



カタカタカタ…これはおばあちゃんの大きなおもちゃが動いている音です。カタカタカタに作れないものなんかありません。わたしのお気に入りのスカーフもリュックもみんなおばあちゃんを作ってくれた物です。ところがある日、カタカタカタが動かなくなってしまい…。のびのびとしたイラストと女の子とおばあちゃんのやりとりが温かい、台湾の絵本です。

『ぺちゃんこねこ』

ハーウィン・オラム／ぶん
グウェン・ミルワード／え ひがし かずこ／やく
岩崎書店



高いビルのてっぺんにある素敵なお部屋に住んでいるジミー。飼い主のソフィーはジミーにおもちゃを買い、おしゃれな服を着せてとても可愛がりましたが、外には出しませんでした。気分がぺちゃんこなジミーは家の鍵を見つけて初めて家から出ていきます。外の世界を味わったジミーはどんな気持ちになるでしょう？わくわくな気分になれる1冊です。

『シロクマのしゅくだい』

ティラ・ヒーダー／作
石津ちひろ／訳
絵本塾出版



宿題でシロクマについて調べることになったソフィ。あまり乗り気になれなかったのですが、突然シロクマのオラファーが家にやってきて、ソフィを北極へ連れ出します。「ちゃんとじぶんのめでたしかめないとね」オラファーとの北極での一日は新しいことがいっぱい。すてきで、わくわくして、そしてほっこり。シロクマが大好きになる絵本です。

『わたしのもりをぬけたら』

レイチェル・ウッドワース／作
サン・ミャオ／絵 華恵／訳
フレーベル館



わたしの毎日は、いいかんじにうまくいく日ばかりじゃない。こころがムシャクシャしたり、チクチクしたり、イライラしたり。そんなときは、こころの中でつぶやくの。「でるよ でるよ こころからおくへ」。そして、わたしのこころの中の秘密の森に出かけるの。そこは豊かな想像の世界。想像の世界が気持ちをうまく切り替えるちからを与えてくれます。

『ペンソン先生にあたしはきっと☆はもらえない』

ジェニファー・K.マン／作
青山 南／訳
光村教育図書



よくできた子に、ペンソン先生は黒板に名前を書いて☆をつけてくれる。でも、ローズはこれまで一度も☆をもらったことがない。今日こそはと、机の点検の日の朝にピカピカに掃除をしたのに、手紙を書く授業で夢中になりすっかりぐちゃぐちゃにしてしまう…。算数も、朗読も、片付けも得意じゃないけれど一生懸命なローズの姿に心惹かれる一冊です。

『おじいちゃんがペンギンやったとき』

モラグ・フッド／作
長谷川 義史／訳
小学館



おじいちゃんのお家に行ったら、おじいちゃんがいつもとちがいます。釣りの話ばかりして、洋服を着ることもできないのです。おじいちゃんも歳をとったからなのだと思っていたら、動物園から電話がかかってきます。おじいちゃんは一体どうなったのでしょうか？くすくと笑えて、最後にはびっくりする展開が待っているユーモアにあふれた絵本です。

読みもの(日本)

『きくち駄菓子屋』 かさいまり／作 しのとうこ／絵 アリス館



浩介は2学期から新しい学校に転校することになった。引っ越し後、探検をしていて駄菓子屋を見つけた。そのじいちゃん初めての友達になった。学校が始まってからも放課後は、駄菓子屋に通った。だがある時、駄菓子屋にじいちゃんがいなかった。代わりにいたのは、じいちゃんの孫だった。このお話は、きくち駄菓子屋を舞台として、浩介とじいちゃんと、その孫娘で展開される切ないけれど、心温まるお話。

『おじいちゃんとおかしな家』

西美音／作
石川えりこ／絵
フレーベル館



くるみのおじいちゃんは元大工。木材でいろいろなものを作るけれど、できあがるのはへんてこなものばかり。木彫りのコイは水をふきだすし、ブサイクな犬はかみついてくる。おじいちゃんの作品には、たましいが宿るらしい。おまけに、おじいちゃんの親友のゼンさんにも、何かみつがあるみたい。
ちょっぴり不思議でおかしな家のお話です。

『邪馬台戦記 1 闇の牛王』

東郷 隆／作
佐竹 美保／絵
静山社



三世紀の初頭。瀬戸内海沿岸部の村では、数年置きにクナ国が村の少年少女を生口(奴隷)としてさらっていた。ウクイの村の少年スヒコは、幼馴染の少女ツナテが生口(奴隷)に選ばれたのを知り、自らも名乗りを上げ一緒に船に乗る。12歳のスヒコは村におこる禍のもとを断つことはできるのか。日本のルーツと邪馬台国の謎に迫る古代冒険小説。

『さよなら、ぼくらの千代商店』

中山 聖子／作
岩崎書店



「ここではないどこかへ行きたい」一度はそう思ったことはありませんか？この物語の主人公達も、それぞれに悩みを抱え、ここではないどこかを願っていました。そんな時に思わず飛び乗ったバスが向かった場所は…。
4つの物語の中に、それぞれ4人の主人公がいるこのお話は、夏らしくすがすがしい読み応えで、ぜひ夏休みの前に読んでほしい一冊です。

『凸凹あいうえおの手紙』

別司 芳子／著
ながおか えつこ／絵
くもん出版



「点字」を知っていますか？目が不自由な人が読んだり書いたりするための文字です。大地が交流会への招待状を届けた佐山さんは目が不自由のため、文字の手紙ではなく、点字で手紙を書こうと決意します。なにをしても続かない大地は点字を覚えて、手紙を書けるのでしょうか？実際に大地が書いた点字の手紙が載っているので触れてみてください。

『ヨッチちゃんのよわむし』

那須 正幹／作
石川 えりこ／絵
ポプラ社



こわがりの男の子ヨッチちゃんが、保育園の友だちと3人だけで天神山にどんぐり拾いにでかけることになりました。よわむしヨッチちゃんはおそろおそろみんなについていきます。ところが帰る途中でみんな穴に落ちてしまいピンチが迫ったとき、大活躍をはたすのです。「ズッコケ三人組」著者による元気のでる幼年童話です。

『ドリーム・プロジェクト』

濱野 京子／著
PHP研究所



中学2年生の拓真は、祖父の勇を元気づけてあげたいと思っていた。そして、祖父がかつて過ごした家の修繕を思いつく。同級生の日菜子からクラウドファンディングを提案され、拓真の想いは、地域の憩いの場となる古民家再生というプロジェクトとして動きはじめる。インターネットの力を借りて、夢を実現するための資金集めは成功するのでしょうか？

『ビター・ステップ』

高田 由紀子／作
おとない ちあき／絵
ポプラ社



小学5年生の夏、あかりは大阪に住んでいたおばあちゃんと一緒にくらすことになった。けれど、大好きだったおばあちゃんは脳梗塞の後遺症で“鬼ババ”に変わってしまった。そのことが信じられないあかりだったが、一緒にくらししていくなかで家族について考えることになり…。ほろ苦くも希望を持って前に進む家族のおはなしです。

『アンナとパイプ』

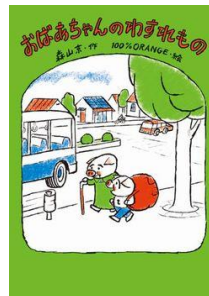
こみね ゆら／作
講談社



引き出しの中にあるお人形のアンナ、かごの中のぬいぐるみのパイプはとても退屈しています。でも女の子が持ってきたおもちゃの家具が入っているトランクが新しいお部屋となり、ふたりで一緒に暮らします。パティシエになりたい、探検家になりたい、バレリーナになりたいと思うふたりとお部屋の大家さんになった女の子とおはなしが始まります。

『おばあちゃんのわすれもの』

森山 京／作
100%ORANGE／絵
のら書店



こぶたのトンタは、おばあちゃんといっしょにニギヤカマチにでかけます。「カバヤマ・クリニック」に、「スマレようひんてん」、めがねやの「カクカクどう」、そしてお楽しみは「カフェ・チロリン」のチョコレートパフェ。おばあちゃんのおともはワクワクする小旅行のようです。あれ？おばあちゃんのつえが見当たらない？トンタは見つけることができるかな？全頁カラー挿し絵で楽しめる1冊です。

『トリガー』

いとう みく／著
ポプラ社



中学二年生の音羽(とわ)と亜沙見(あさみ)は、いつも一緒にの親友だった。しかし、亜沙見の姉が亡くなったことをきっかけに亜沙見の様子は変わっていき、ついに家出をしてしまう。亜沙見の変化に気づきながら、彼女に踏み込むことができない音羽。傷つき苦しみながら自分の存在を確かめたい亜沙見。自分の居場所を探しながら葛藤し、寄り添うふたりの少女の物語。

『ぼくは本を読んでいる。』

ひこ・田中／著
講談社

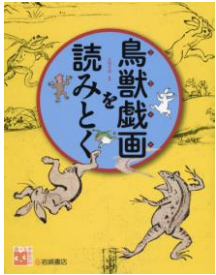


主人公のルカの家には、両親が使う“本部屋”がある。そこで見つけた、両親のどちらかが小学生のころに読んだ本。読書があまり好きではなかったけれど、どうしてかその本を親に隠れて読みたくなった。『小公女』をはじめ、読書を通してルカの周囲も少しずつ変わってきて…。本好きではない少年の心を丁寧に描いた、読書が楽しくなる一冊です。

テーマ本

『鳥獣戯画を読みとく』

五味 文彦／監修
岩崎書店



日本で最初のマンガ？といわれる絵巻物「鳥獣戯画」を、様々な視点から読むことができる一冊です。「鳥獣戯画」とはなんなのか？どんな動物が描かれているのか？いつ、だれが、何のために描いたのか？などの視点だけでなく、他の絵巻と比較することで「鳥獣戯画」のユニークな特徴がわかりやすく紹介しています。この本で、秘密の多い絵巻物の七不思議を読みといてみましょう！

『探検!世界の駅 くらしと文化が見えてくる』

谷川 一巳／監修
PHP研究所



皆さんは駅には人が利用するための駅と荷物を降ろすための駅があることを知っていますか？その他にも駅の歴史や個性的な駅の紹介があります。例えば、植物園のような駅や世界一高い場所にある駅、砂漠の真ん中にあるのに海をイメージした駅など世界にはこんな駅があるのかと思うような駅が載っています。

皆さんも個性的な駅の数々を手にとってごらんください。

『菌の絵本 かび・きのこ』

白水 貴／監修
山福 朱実／絵
農山漁村文化協会



菌は悪者？私たちの身の回りには菌がいっぱい。とても小さくて目には見えないけれど、人間の体にも100種類くらいの菌がいるんです。梅雨の季節、パンに生えたカビも菌だけれど、おいしいキノコや、お酒やパンを作る麹も菌なんですよ。菌って良いもの？悪いもの？本当の菌の姿を見てみませんか？

『その情報、本当ですか？』

ネット時代のニュースの読み解き方
塚田 祐之／著
岩波ジュニア新書



今、私たちはあふれる情報の中に暮らしています。膨大で多種多様な情報の中には「フェイクニュース」と呼ばれる誤った情報も含まれています。どうやったら誤った情報に惑わされずに「事実」を知ることができるのでしょうか。

長年、報道に携わった著者が、報道の在り方やネット情報の仕組みを例に挙げながら、“ニュース・情報を読み解く力”を考えます。

『ぼくのなまえはへいたろう』

灰島 かり／文
殿内 真帆／絵
福音館書店



主人公の“へいたろう”は自分の名前が嫌いな男の子です。だっていつも学校でからかわれるし、友達みたいにもっと短くてかっこいい名前がいいと思っていました。けど、名前を変えるのはとても難しいみたい。そもそもなんで“へいたろう”という名前をつけたのか知るため、お父さんに理由をきいてみることに…。名前を通して自分や家族について考えられる絵本です。

『ソフィーのくだものばたけ』

ゲルダ・ミュラー／作
ふしみ みさを／訳
BL出版



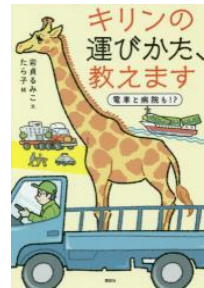
フランスに住んでいるソフィーは南フランスの田舎の家が大好きです。ソフィーのお気に入りの場所はオレンジの木の下。夏には赤い果物畑でスグリやサクランボ、秋にはクルミやクワの実の収穫時期になります。みんなはどんなくだものが好きですか？イラストや解説を読んで、くだものについて調べてみよう！

『わたしのくらし 世界のくらし
—地球にくらす7人の子どもたちのある1日—』
マット・ラマス／作・絵
おおつかのりこ／訳
汐文社



世界中にくらす子どもたち、どんな家に住んでいるの？学校にはどんな服で行くの？ごはんは何を食べているの？私と同じ？それとも違う？実際にこの地球でくらす7人の子どもたち、イタリアのロメオ、ウガンダのダフィン、日本のけい、ロシアのアレグ、インドのアナーニヤ、ペルーのリバルド、イランのキアンのごく普通の1日を追った絵本です。

『キリンの運びかた、教えます 電車と病院も!?』
岩 貞 るみこ／文
たら子／絵



目の前にあるすべてのものは、誰かが「運んでくれたもの」です。この本では、岩手から東京へお嫁に行くキリン、海を越えてイギリスまで運ぶ鉄道車両、子ども病院の引っ越しの「運び方」が紹介されています。そこには、安全に運んで当たり前の仕事だけど、運ぶもののことを思い、手を抜かず、仲間を信じて最善を尽くす「運ぶ」プロの仕事が描かれています。

『楽しいオーケストラ図鑑』
東京フィルハーモニー交響楽団／監修
小学館



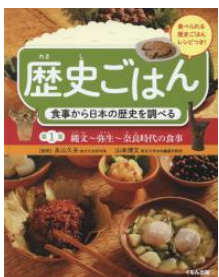
オーケストラってなに？どんな楽器があるの？オーケストラの1日のスケジュールは？知りたいと思ってもなかなか聞けないことイラストや写真でわかりやすく紹介しています。クラシックって難しい、敷居が高いと思いがちなオーケストラを身近に感じることができます。楽器を習っている子も、これから音楽を知りたい子も楽しめる一冊です。

『あずき』
荒井 真紀／さく
福音館書店



みなさんはお正月にぜんざいやおまじゅうなどは食べましたか？赤飯やたい焼きにも共通する食材が「あずき」です。あずきの種を植えるるとどんな形の葉っぱが生えるか、何色の花が咲くのか、ひとつのさやにいくつの豆が収穫できるのか。この本を読むとたくさんの疑問が解決できます。いろいろなお祝い事の際にあずきが使われますが、他にどんなものがあるか探してみましよう！

『歴史ごはん 食事から日本の歴史を調べる
第1巻 縄文～弥生～奈良時代の食事』
永山 久夫・山本 博文／監修
くもん出版



昔の日本に暮らした人たちは、どんなごはんを食べていたの？白いご飯や味噌汁はあった？いいえ、縄文人はドングリや猪の肉、弥生人は、お米を食べていましたが、白ではなく赤いご飯だったんです。奈良時代になると貴族は白いご飯や日本中の美味を集めたごちそうを食べていました。食事から日本の歴史がわかる1冊です。再現料理の写真や食べられる歴史ごはんレシピも載っています。

『数字はわたしのことば
ぜったいにあきらめなかった数学者ソフィー・ジェルマン』
シェリル・バードー／文
バーバラ・マクイントック／絵
福本 友美子／訳



フランスのパリに住む、ソフィー・ジェルマンは数学が大好きな女の子。数学者になって数字を自分の言葉にし、世の中のことを解き明かしたいと考えていました。しかし時代はフランス革命のさなか。女の子が数学を勉強するには困難な時代でした。ソフィーはたび重なる困難に負けず、生涯を数学に捧げ方程式を導き出します。実在の数学者の物語です。